

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公)

討議年月日:令和 6 年 8 月 19 日

公表:令和 6 年 9 月 18 日

事業所名 : 児童発達支援・放課後等デイサービスおおきなうち

		チェック項目	はい	いいえ	工夫、改善計画している点
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		死角などにも配慮できるようにスタッフ配置を行っている。
	2	職員の配置数は適切である	○		10人に対し二人の配置という国の基準を満たす配置をしています。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○	生活空間に関しては、利用者にわかりやすいよ配慮している。建物の構造上完全バリアフリーが難しいが、障害物等なくバリアフリーに近い状態に出来るよう検討している。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		日々の朝礼と定期的なミーティングで報告改善を実施している。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		今年度が初めてですが、職員課でも結果共有する事+結果を公表する事をしていく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		おおきなうちのホームページで公表し、集計結果を配布しています。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	現在は保護者と社内評価のみですが必要に応じて検討していきたい。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		への参加や内部での研修を実施し、専門性や知識をつけることを推奨
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		ご利用に際して保護者面談を行いニーズや困りごとの把握をしたり記録やスタッフの意見、また外部で行った発達検査の結果なども支援計画を作成しております。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		日々のミーティングで話し合い、共通の目的をもって取り組みや支援が出来ることを目指しています。プログラムについても同じプログラムばかりにならないよう計画書やスケジュールを確認しながら検討しています。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		利用時間や曜日に応じて課題を考え様々な取り組みが出来るよう検討し作成している。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		の発達に応じて様々な方面から支援が出来るよう支援計画を作成して
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		朝礼の実施と定期ミーティングを行い役割分担や支援方法、配慮点など共有や確認をしています。また記録をもとに一人一人の活動のステップアップや改善につなげられるようにしています。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している		○	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		6か月に一回見直しを実施しています。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○		ガイドラインに即した活動を基本に支援内容を検討している。

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		実施の際は管理者や担当者が出席しています。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		予定表などで調整をしながら都度対応している。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○		必要な支援が適切に出来るよう関係機関と連携を行っている。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		対象児童がいないため。今後必要に応じて検討指定いく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		対象児童がいないため。今後必要に応じて検討指定いく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		基幹支援センターなどと連携し必要に応じた研修を受けている。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		事業所としては現在取組はしていないが、希望があれば検討していく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		関連するものに関しては積極的に参加している。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解を持っている	○		日々フィードバックを行っている。 また家族支援等、必要に応じて個別に支援する時間を設けている。
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		現在家族支援の実施をしております。 ペアレント・トレーニングの実施はしていませんが、必要に応じて検討しております。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に説明をさせていただいております。 なお不明点等は随時職員が説明させていただいております。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		希望に応じて相談を受けております。 また保護者同士が交流できるよう定期的にファミリー会を開催しております。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		契約時に苦情に関しての説明と連絡先をご案内しています。 苦情があった場合には適切に対応出来るよう従業員にも定期的に研修している。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		おおきなうちのインスタグラムとホームページやお便りで発信をしております。
	35	個人情報に十分注意している	○		個人情報の記載があるものは鍵付きの書庫や引き出しで保管しています。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		視覚的にわかりやすく伝えたり、スケジュールを提示したりしている。 保護者の方にもどのようにしたら伝わりやすいかなど相互共有している。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		定期的にどなたでの参加できるファミリー会の開催と、マルシェを開催しております。開かれた施設になるよう今後も様々な行事を検討していきます。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○	マニュアルの作成をし毎月避難訓練を実施しております。周知に関しても今後改善に努めていきます。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○	定期訓練を実施している。 今後はより実際の避難時に困らないよう災害を想定した訓練を実施して行きたい。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○	外部研修の参加と事業所内での研修を実施している。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○	利用者本人の安全の為に切迫性・非代替性・一時性があることを条件に拘束を行うことを共通認識をとし必要に応じて実施をすることになっている。実施をした場合は記録に残すことになっている。また保護者には契約書に記載し説明をし必要に応じて同意書を頂いている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○	契約時にアレルギー、服薬の情報をご記入いただき把握できるよう努めている。 定期的に職員に周知をし職員全員が把握できるようにしている。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○	ヒヤリハット記入用紙を作成しており、気が付いたことはすぐに共有できるようにしている。